

機械器具51 医療用嘴管及び体液誘導管

管理医療機器

輸血・カテーテル用アクセサリセット 70326002

JMSコネクター

再使用禁止

(逆流防止弁A)

【禁忌・禁止】

●再使用禁止

<使用方法>

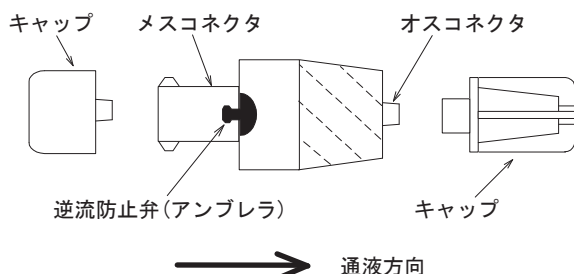
●本品は重力落下式輸液では使用できないため、シリンジポンプ等を用いて通水圧が0.01MPa～0.05MPaになるよう輸液を行うこと。

●血圧モニタラインに組み込んで使用する場合は、加圧バググルートには使用しないこと。〔過剰輸液に至る可能性がある。〕

【形状・構造及び原理等】

逆流防止弁を有したコネクターである。

<構成>



【使用目的、効能又は効果】

医療機器と医療機器の接続及び医療機器の末端部の閉塞に用いる。

**【操作方法又は使用方法等】

1. 包装から本品を取出します。
2. 前後のキャップを外し、輸液ラインに接続します。
3. 本品のオスコネクター側を上に向けて、ライン先端まで薬液を満たします。このとき、本品を指先で叩くと、内部のエアを簡単に除去することができます。
4. ライン全体にエアがないことを確認し、任意の速度で輸液を開始します。

使用方法に関連する使用上の注意

●他の医療機器と接続する際は通液方向を確認し、逆に接続しないよう注意すること。又、過度な締め付けをしないこと。〔接続部が破損する可能性がある。〕

●本品とシリンジポンプ又は輸液ポンプを併用する場合は以下の事項を順守すること。

- (1) ポンプの閉塞検知警報をONにして使用すること。
- (2) 本品の通水圧は0.01～0.05MPaであるため、ポンプの閉塞検知圧は0.05MPaより高くして使用すること。〔閉塞検知機能が働きポンプが駆動しない可能性がある。〕
- (3) ポンプの閉塞検知圧が高い場合、0.05MPa以下もしくは閉塞検知圧以下で液漏れを起こす器具と組み合わせて使用しないこと。

●血圧モニタラインに組み込んで使用する場合は、以下の点に注意すること。

- (1) 本品は、観血式血圧測定において、フラッシュ装置を内蔵しないトランスデューサと微量注入器具(シリンジポンプ等)の間に組み込み使用します。その場合、本品はトランスデューサに直接接続すること。

- (2) 正確な血圧モニタを行うため、本品及びライン内のエア抜きを厳

重に行うこと。

●コネクター等の接続部に薬液が付着した状態で接続した場合は、接続部に緩みが生じるので注意すること。

●逆流防止弁は完全に逆流を止めるものではないため、注意すること。〔ポンピング操作時の急激な注入、吸引操作や混注口からの持続注入量とメインライン注入量との差により発生する流路内圧力差及び拡散により逆流が発生する可能性がある。〕**

【使用上の注意】

1. 重要な基本的注意

- 併用する医薬品及び医療機器の添付文書を確認後、使用すること。
- 包装を開封したらただちに使用すること。
- 包装が破損、汚損している場合や、製品に破損、変形等の異常が認められる場合は使用しないこと。
- 開封時は接続部の外れや緩みがないことを確認してから使用すること。
- 使用中は、接続部の緩み、液漏れ又は破損等に注意し、定期的に確認すること。
- 脂肪乳剤及び脂肪乳剤を含む医薬品、ヒマシ油等の油性成分、界面活性剤又はアルコール等の溶解補助剤等を含む医薬品を投与する場合及びアルコールを含む消毒剤を使用する場合は、コネクターのひび割れについて注意すること。〔薬液によりメスコネクターにひび割れが生じ、血液及び薬液漏れ、エア混入等の可能性がある。特に、全身麻酔剤、昇圧剤、抗悪性腫瘍剤及び免疫抑制剤等の投与では、必要な投与量が確保されず患者への重篤な影響が生じる可能性がある。なお、ライン交換時の締め直し、過度な締め付け及び増し締め等は、ひび割れの発生を助長する要因となる。〕

●ひび割れが確認された場合は、ただちに新しい製品と交換すること。

●使用中、本品に逆流又は液漏れが認められる場合は使用しないこと。

●エア除去の際は、鉗子等の硬いもので叩かないこと。〔破損の原因となる。〕

2. その他の注意

- 接続部に直接手で触れないこと。
- 使用後は感染防止に配慮して安全な方法で処分すること。

*【貯蔵・保管方法及び使用期間等】

1. 貯蔵・保管方法

●水ぬれに注意し、高温、多湿、直射日光を避けて保管すること。

2. 使用期限

●箱の使用期限欄を参照すること。〔自己認証(当社データ)により設定〕*

【包装】

50個/箱

【製造販売業者及び製造業者の氏名又は名称及び住所等】

製造販売元及び製造元

株式会社ジェイ・エム・エス

広島市中区加古町12番17号

郵便番号：730-8652

電話番号：082-243-5806